



交付運用報告書

ハッピーエイジング・ファンド

ハッピーエイジング20 ハッピーエイジング30
 ハッピーエイジング40 ハッピーエイジング50
 ハッピーエイジング60

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間：2021年7月16日～2022年7月15日

第22期 決算日：2022年7月15日



受益者の
みなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、日本及び世界各国の株式や公社債を実質的な主要投資対象とし、中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。当作成期もそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

第22期末 2022.7.15

	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
基準価額	18,338円	17,915円	16,752円	15,150円	13,192円
純資産総額	14,848百万円	17,096百万円	21,277百万円	9,555百万円	5,430百万円
騰落率*	5.1%	4.5%	2.0%	△0.1%	△1.3%
期中分配金合計	0円	0円	0円	0円	0円

※ 騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

▶ 運用報告書（全体版）の閲覧方法



<https://www.sompo-am.co.jp/>
にアクセス

「ファンド検索」等から当ファンドのページを表示して、
閲覧またはダウンロードすることができます。



SOMPOアセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル
お問い合わせ先：リテール営業部

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）



0120-69-5432

運用経過

● 基準価額の推移



基準価額の推移

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング20

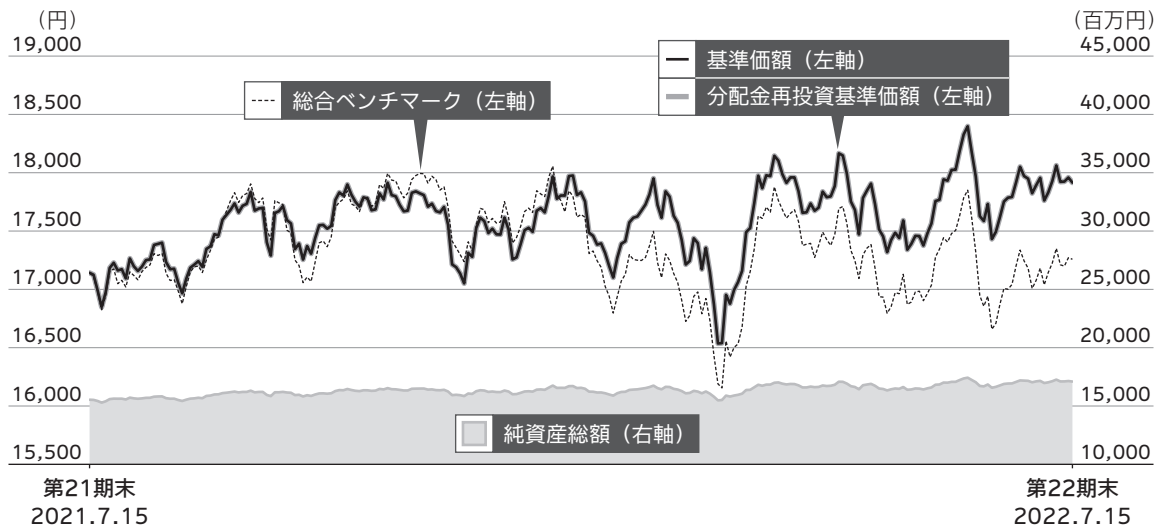
当期間、投資対象である「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」や「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の基準価額が上昇したことを主因に、当ファンドの基準価額は上昇しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

☰ ハッピーエイジング30



第22期首

基準価額
17,142円

騰落率

4.5%
(分配金再投資)
(基準価額ベース)

第22期末

基準価額
17,915円
(期中分配金)
(合計0円)

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング30

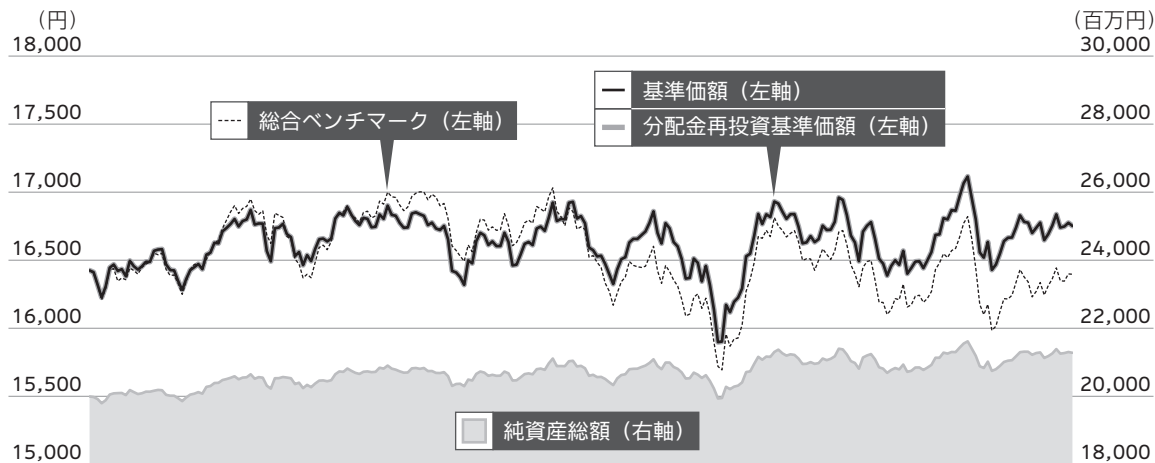
当期間、投資対象である「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」や「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の基準価額が上昇したことを主因に、当ファンドの基準価額は上昇しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

📊 ハッピーエイジング40



第21期末
2021.7.15

第22期末
2022.7.15

第22期首

騰落率

第22期末

基準価額
16,425円

2.0%
(分配金再投資)
(基準価額ベース)

基準価額
16,752円
(期中分配金)
(合計 0円)

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング40

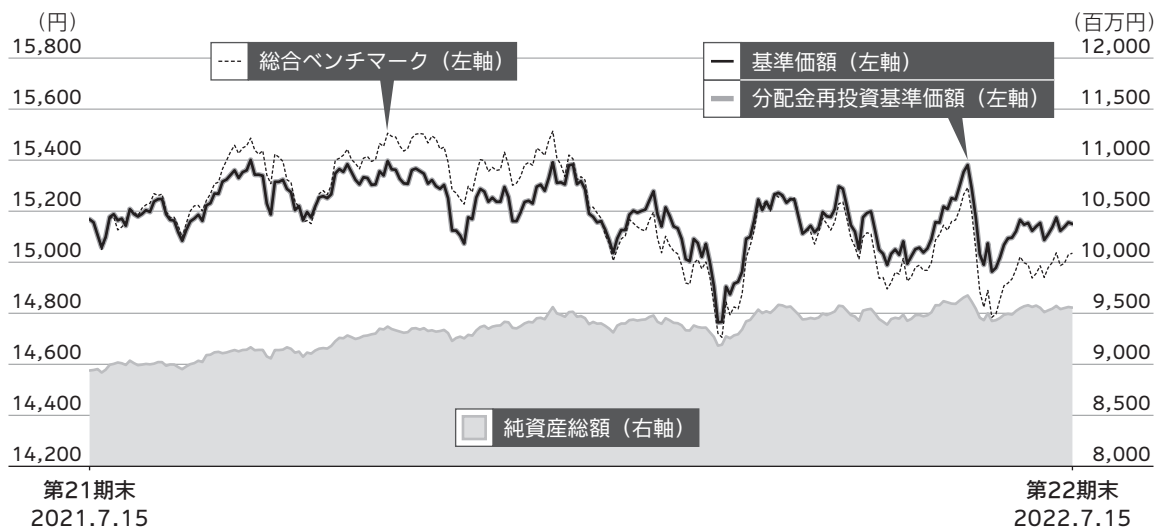
当期間、投資対象である「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」や「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の基準価額が上昇したことを主因に、当ファンドの基準価額は上昇しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

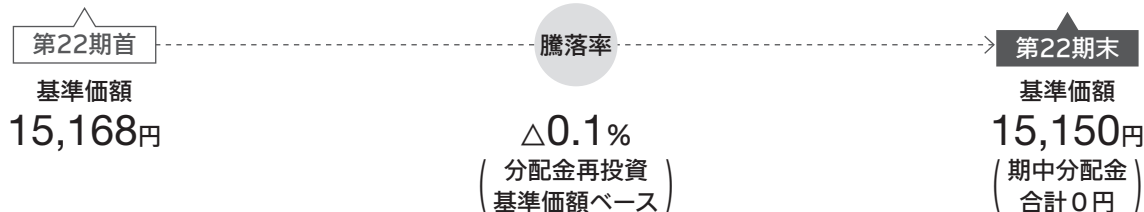
 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

☰ ハッピーエイジング50



基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング50

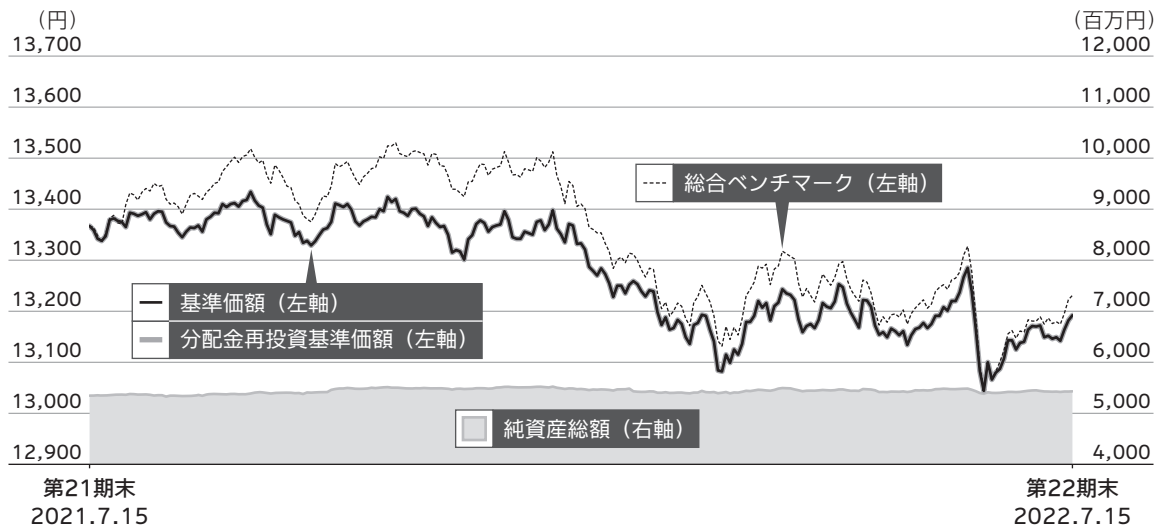
当期間、投資対象である「損保ジャパン日本債券マザーファンド」の基準価額が下落したことを主に、当ファンドの基準価額は下落しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

☰ ハッピーエイジング60



基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング60

当期間、投資対象である「損保ジャパン日本債券マザーファンド」の基準価額が下落したことを主に、当ファンドの基準価額は下落しました。

S J AMラージキャップ・バリュース・マザーファンド

騰落率は+13.4%となりました。

国内株式市場は下落したものの、期を通して株式を高位に組入れていたマザーファンドの基準価額は上昇しました。

個別銘柄では、三菱UFJフィナンシャル・グループ、日揮ホールディングス、日本電信電話、第一生命ホールディングス、三菱商事などの保有銘柄が上昇したことで基準価額は上昇しました。

S J AMスモールキャップ・マザーファンド

騰落率は+6.9%となりました。

国内株式市場は下落したものの、期を通して株式を高位に組入れていたマザーファンドの基準価額は上昇しました。

個別銘柄では、シチズン時計、八十二銀行、七十七銀行、日揮ホールディングス、トッパン・フォームズなどの保有銘柄が上昇したことで基準価額は上昇しました。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

期中の騰落率は-3.0%となりました。主に10年超の債券の利回りが上昇（価格は下落）したことで基準価額は下落しました。

損保ジャパン-T C W外国株式マザーファンド

期中の騰落率は+3.4%となりました。

保有する株式の価格は下落しましたが、為替において米ドル、ユーロ、英ポンドなどが対円で大幅に上昇したことが主にプラスに寄与しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

期中の騰落率は+5.2%となりました。

米国債券や欧州債券など主要国債券の利回りが上昇（価格は下落）したことはマイナスに働きましたが、円に対してドルやユーロなど主要通貨が上昇したことから、基準価額は上昇しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 1万口当たりの費用明細

📁 ハッピーエイジング20

項目	第22期 2021.7.16~2022.7.15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	292円	1.617%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は18,056円です。
(投信会社)	(117)	(0.649)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(165)	(0.913)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(10)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	14	0.080	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(14)	(0.078)	
(投資信託証券)	(0)	(0.002)	
(c) 有価証券取引税	0	0.002	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.002)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	5	0.026	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(3)	(0.016)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.006)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(1)	(0.004)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	311	1.725	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

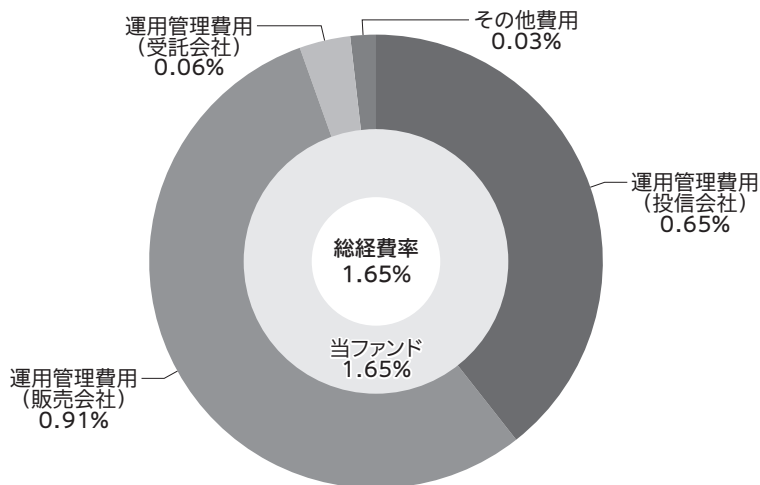
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.65%**です。



1
万口
当
た
り
の
費
用
明
細


注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。


ハッピーエイジング30

項目	第22期 2021.7.16~2022.7.15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	261円	1.485%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は17,573円です。
(投信会社)	(102)	(0.583)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(149)	(0.847)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(10)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	11	0.065	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(11)	(0.064)	
(投資信託証券)	(0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.001)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	4	0.023	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(3)	(0.015)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.005)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(1)	(0.003)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	276	1.574	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

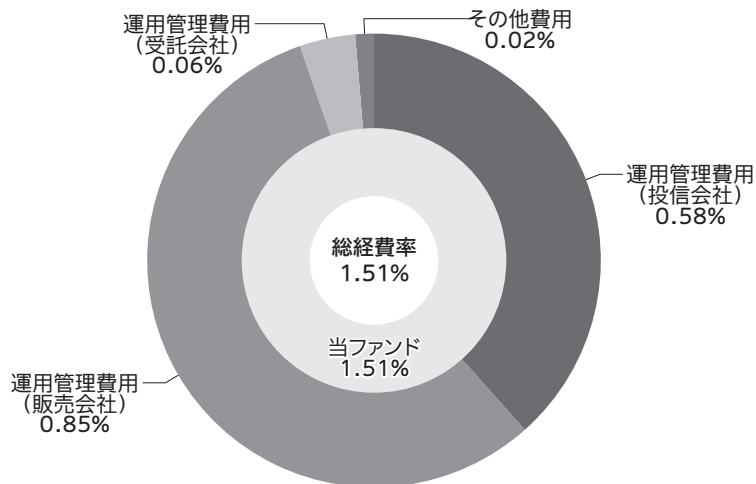
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.51%**です。



1万口当たりの費用明細

注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



ハッピーエイジング40

項目	第22期 2021.7.16~2022.7.15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	219円	1.320%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は16,627円です。
(投信会社)	(86)	(0.517)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(124)	(0.748)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(9)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	8	0.045	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(7)	(0.044)	
(投資信託証券)	(0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.001)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.017	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(2)	(0.011)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.004)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	230	1.383	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

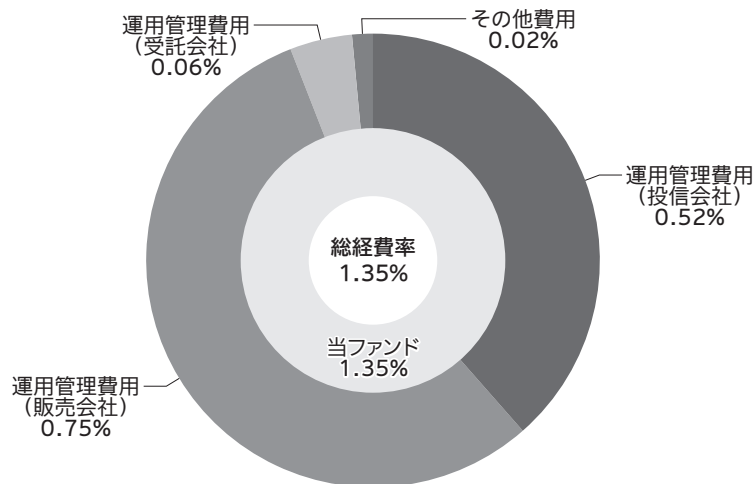
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.35%**です。



注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



ハッピーエイジング50

項目	第22期 2021.7.16~2022.7.15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	172円	1.133%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は15,193円です。
(投信会社)	(69)	(0.451)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(95)	(0.627)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.027	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(4)	(0.027)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.000)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.017	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.007)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.009)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	179	1.177	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

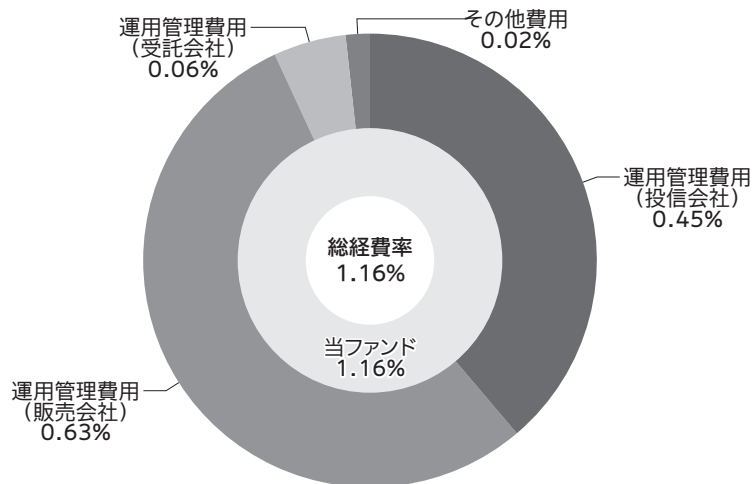
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.16%**です。



1
万口
当
た
り
の
費
用
明
細

注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



ハッピーエイジング60

項目	第22期 2021.7.16~2022.7.15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	126円	0.946%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は13,285円です。
(投信会社)	(51)	(0.385)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(67)	(0.506)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(7)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.011	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(1)	(0.011)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.000)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.021	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.005)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(2)	(0.015)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	130	0.978	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

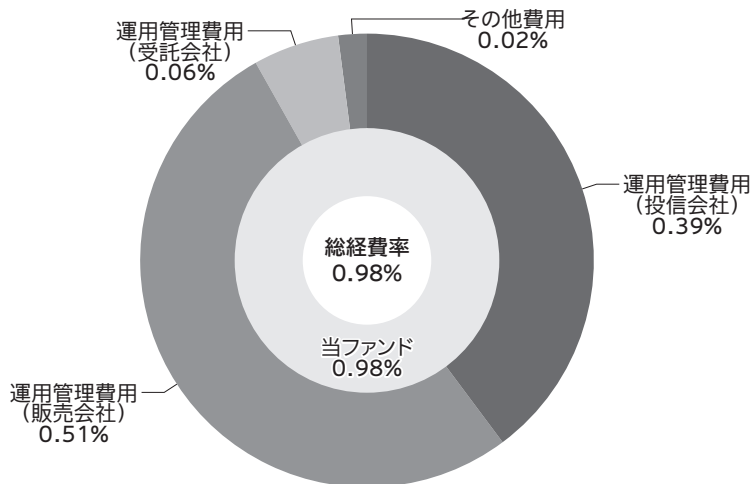
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.98%**です。



1
万口
当
た
り
の
費
用
明
細

注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

● 最近5年間の基準価額等の推移

2017.7.18~2022.7.15



ハッピーエイジング20




- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日		2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日	2020.7.15 決算日	2021.7.15 決算日	2022.7.15 決算日
基準価額	(円)	14,045	15,015	14,179	13,797	17,449	18,338
期中分配金合計（税引前）	(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資		—	6.9	△ 5.6	△ 2.7	26.5	5.1
基準価額騰落率	(%)	—	6.9	△ 5.6	△ 2.7	26.5	5.1
ベンチマーク騰落率	(%)	—	7.6	△ 5.1	3.0	26.0	0.5
純資産総額	(百万円)	9,271	10,439	10,453	10,189	13,007	14,848

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は66ページをご参照ください。▶

2017.7.18~2022.7.15

 ハッピーエイジング30



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。


決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日	2020.7.15 決算日	2021.7.15 決算日	2022.7.15 決算日
基準価額 (円)	14,397	15,148	14,446	14,293	17,142	17,915
期中分配金合計（税引前）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	5.2	△ 4.6	△ 1.1	19.9	4.5
基準価額騰落率 (%)	—	5.2	△ 4.6	△ 1.1	19.9	4.5
ベンチマーク騰落率 (%)	—	6.2	△ 4.1	3.6	19.8	0.7
純資産総額 (百万円)	11,485	12,738	12,699	12,817	15,539	17,096

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は66ページをご参照ください。▶

最近5年間の基準価額等の推移

2017.7.18~2022.7.15


ハッピーエイジング40



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

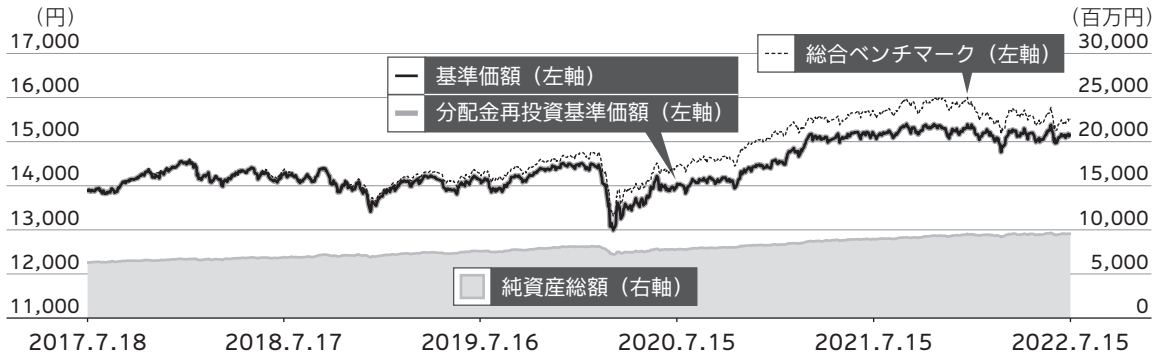
決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日	2020.7.15 決算日	2021.7.15 決算日	2022.7.15 決算日
基準価額 (円)	14,368	14,924	14,537	14,410	16,425	16,752
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	3.9	△ 2.6	△ 0.9	14.0	2.0
基準価額騰落率 (%)	—	3.9	△ 2.6	△ 0.9	14.0	2.0
ベンチマーク騰落率 (%)	—	4.7	△ 2.3	2.4	13.9	△ 0.2
純資産総額 (百万円)	13,906	15,282	16,189	16,815	19,994	21,277

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は66ページをご参照ください。▶

2017.7.18~2022.7.15

 ハッピーエイジング50



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日	2020.7.15 決算日	2021.7.15 決算日	2022.7.15 決算日
基準価額 (円)	13,890	14,262	14,137	14,019	15,168	15,150
期中分配金合計（税引前）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	2.7	△ 0.9	△ 0.8	8.2	△ 0.1
基準価額騰落率 (%)	—	2.7	△ 0.9	△ 0.8	8.2	△ 0.1
ベンチマーク騰落率 (%)	—	3.3	△ 0.5	1.2	8.2	△ 0.9
純資産総額 (百万円)	6,297	6,875	7,592	7,791	8,938	9,555

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

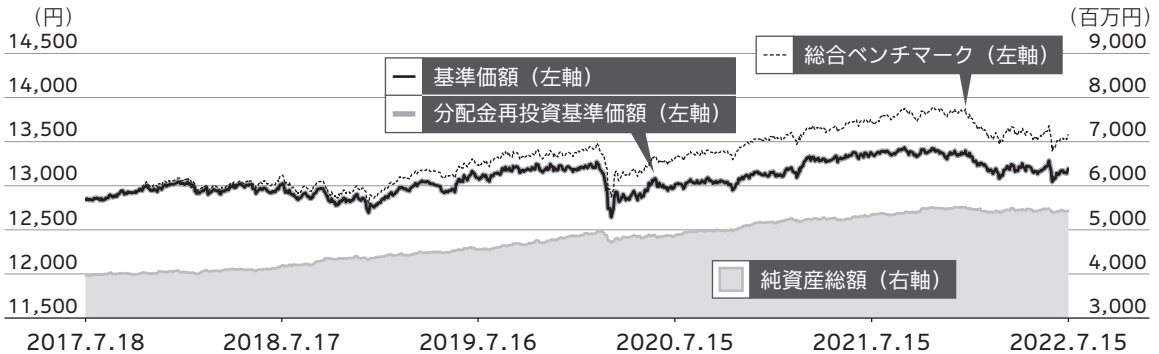
指数に関する詳細は66ページをご参照ください。▶

最近5年間の基準価額等の推移

2017.7.18~2022.7.15



ハッピーエイジング60



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日	2020.7.15 決算日	2021.7.15 決算日	2022.7.15 決算日
基準価額 (円)	12,846	13,015	13,089	13,009	13,367	13,192
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	1.3	0.6	△ 0.6	2.8	△ 1.3
基準価額騰落率 (%)	—	1.3	0.6	△ 0.6	2.8	△ 1.3
ベンチマーク騰落率 (%)	—	2.0	1.0	0.6	3.1	△ 1.0
純資産総額 (百万円)	3,967	4,186	4,551	4,870	5,345	5,430

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は66ページをご参照ください。

最近5年間の基準価額等の推移

● 投資環境

1. 国内株式市況

TOPIXは2.4%の下落となりました。

期初は堅調な経済指標や、菅首相（当時）が自民党総裁選挙への不出馬を表明したことによる国内政治の安定、経済対策への期待の高まりなどから株価は上昇しました。その後は、南アフリカでの新型コロナウイルスのオミクロン株の発見やFRB（米連邦準備理事会）が金融政策正常化を急ぐと見られたこと、ウクライナをめぐる地政学リスクなどから下落しました。期末にかけては、約40年ぶりの高い伸び率となった米国CPI（消費者物価指数）を受けたFRBの積極的な金融引き締めスタンスや、上海における都市封鎖を背景とした中国景気減速観測が下押し圧力となった一方、大幅に進んだ円安や株価の割安感が下支えとなり、売り買い交錯となりました。

2. 国内債券市況

国内債券の利回りは上昇しました。

2021年7月から年末にかけては、円安や資源価格が上昇基調で推移したことで期待インフレ率が上昇し、利回りは小幅上昇しました。その後は、欧米でインフレ率が急速に上昇したことを受けて欧米の中央銀行が金融政策を引き締め方向に転換し、日銀についてもこれまでの緩和的金融政策を転換するとの思惑が高まり利回りは上昇しました。

事業債のスプレッドは、世界的なインフレおよび景気後退懸念から、リスク資産を避ける動きが強まり、前期末から拡大しました。

3. 外国株式市況

○米国株式市場

米国株式市場は下落しました。

2021年の年末にかけては、オミクロン株の感染拡大による景気への警戒感が後退したことや、好調な経済などを受けて堅調に推移しました。

2022年2月は、ウクライナ戦争による世界経済への先行き不透明感から下落しましたが、3月には、ロシアとウクライナの停戦合意に向けた期待などを背景に上昇しました。

期末にかけては、中国での都市封鎖の拡大、物価上昇による金融引き締めへの警戒などから大きく下落しましたが、世界の中央銀行が相次いで利上げを実施し、先行きの景気減速観測が強まり、米国金利が低下傾向になったことを受け、下落幅を一部取り戻しました。

○欧州株式市場

欧州株式市場は下落しました。

2022年の年明けにかけては、オミクロン株の感染拡大による景気への警戒感が後退したことや、英国で行動規制が強化されなかったことなどを受けて上昇しました。

2月以降は、ウクライナ情勢や欧州の金利上昇によるリスク回避の動きから下落しましたが、3月には、ロシアとウクライナの停戦協議に進展の兆しが見られたことが株価を下支えました。

期末にかけては、インフレ高進により各国が利上げをする中で金融引き締めが加速するとの懸念により、軟調に推移しました。

○アジア株式市場

アジア株式市場は概ね下落しました。

2021年の年末にかけては、中国不動産大手の債務問題や、欧州での新型コロナウイルスの感染再拡大などで下落しましたが、オミクロン株への過度な警戒が後退したことで、下落幅を一部取り戻しました。

2022年2月以降は、ウクライナ情勢や原油価格の高騰、中国の一部地域での都市封鎖開始や米国の金融引き締め観測などで下落幅を拡大させる展開となりました。

5月以降は、中国上海の都市封鎖解除や中国の景気対策への期待から上昇しました。

4. 外国債券市況

○米国債券市場

当期の米国10年債利回りは、大幅に上昇しました。

エネルギー価格上昇や供給制約などによりインフレへの警戒感が高まる中、FRB（米連邦準備理事会）がインフレ抑制のため、金融引き締めを進めたことなどから、利回りは大幅に上昇しました。

○欧州債券市場

当期のドイツ10年債利回りは、大幅に上昇しました。

エネルギー価格上昇や供給制約などによりインフレへの警戒感が高まる中、ECB（欧州中央銀行）がインフレ抑制のため、早期に金融政策の正常化を進める姿勢を示したことなどから、ドイツ10年債利回りは、大幅に上昇しました。

○為替相場

当期の米ドル円相場は、大幅な円安ドル高となりました。

ドル円相場は、FRBが金融引き締めを加速した一方、日銀は金融緩和を継続したことから、日米の金融政策格差が拡大し、大幅な円安ドル高となりました。また、原油高などによる日本の貿易赤字傾向も円安圧力となりました。

5. エマージング株式市況

当期のエマージング株式市場は下落しました。

期初は中国のインターネット企業や学習塾に対する規制強化の動きが高まったことに加え、2021年の秋口には中国不動産大手である中国恒大集団の債務問題が浮上し、株価は下落しました。

2022年の年明け以降は米国での早期利上げ観測が高まったことに加え、2月にはロシアによるウクライナ侵攻、3月には上海を始めとする中国主要都市での都市封鎖が行われ、株価は大幅に下落しました。その後、中国での金融緩和や景気刺激策を好感して反発する局面も見られましたが、欧米諸国が利上げを進める中で、新興国市場からの資金流出懸念が継続して見られ、期を通じては、株価は下落しました。

● 当該投資信託のポートフォリオ

ハッピーエイジング・ファンド

各ファンドの資産アロケーションについては、当社が決定した基準資産配分比率を、各々ほぼ維持する戦略を採りました。

ハッピーエイジング20実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	2.0%	2.0%	0.0%
外国債券	6.2%	6.0%	0.2%
国内株式	51.9%	52.0%	△0.1%
外国株式	33.0%	33.0%	△0.0%
エマージング株式	4.4%	5.0%	△0.6%
短期資産	2.5%	2.0%	0.5%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング30実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	8.1%	8.0%	0.1%
外国債券	20.6%	20.0%	0.6%
国内株式	43.6%	44.0%	△0.4%
外国株式	20.9%	21.0%	△0.1%
エマージング株式	4.5%	5.0%	△0.5%
短期資産	2.2%	2.0%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング40実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	33.3%	33.0%	0.3%
外国債券	15.4%	15.0%	0.4%
国内株式	30.6%	31.0%	△0.4%
外国株式	13.9%	14.0%	△0.1%
エマージング株式	4.7%	5.0%	△0.3%
短期資産	2.2%	2.0%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング50実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	57.4%	57.0%	0.4%
外国債券	11.3%	11.0%	0.3%
国内株式	18.7%	19.0%	△0.3%
外国株式	7.9%	8.0%	△0.1%
エマージング株式	2.5%	3.0%	△0.5%
短期資産	2.2%	2.0%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング60実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	72.3%	72.0%	0.3%
外国債券	16.3%	16.0%	0.3%
国内株式	7.9%	8.0%	△0.1%
外国株式	2.0%	2.0%	△0.0%
エマージング株式	0.0%	0.0%	0.0%
短期資産	1.5%	2.0%	△0.5%
合計	100.0%	100.0%	-

S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、99.1%です。

当期も、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき、銘柄入替を行いました。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、THK、キリンホールディングス、スタンレー電気などでした。

主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、日本電信電話、味の素、日本たばこ産業などでした。

S J A M スモールキャップ・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、98.8%です。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、エン・ジャパン、UTグループ、豊田合成などでした。

主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、日鉄ソリューションズ、ひろぎんホールディングス、ダイビルなどでした。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

金利戦略は、国債利回りが上昇基調で推移した2022年1月以降は、主に長期、超長期ゾーンを中心に、ショートデュレーション戦略をとりました。また、デュレーション幅は、ニュートラルも含め機動的に変更しました。加えて、イールドカーブ上の相対的に割安な年限をオーバーウェイトするレティフ・バリュー戦略もとりました。

債券種別戦略は、非国債のオーバーウェイト幅を拡大しました。

個別銘柄選択は、金融機関の劣後債を中心に、信用力対比で投資妙味のあると判断した銘柄を組み入れ、国債と入れ替えを行いました。

損保ジャパン-T C W外国株式マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

期を通して債券の組入比率は概ね高位に維持しました。

・国別配分

ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更しました。

・デュレーション・残存期間構成戦略

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて、機動的にポジションを変更しました。

なお、為替ヘッジは行っておりません。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

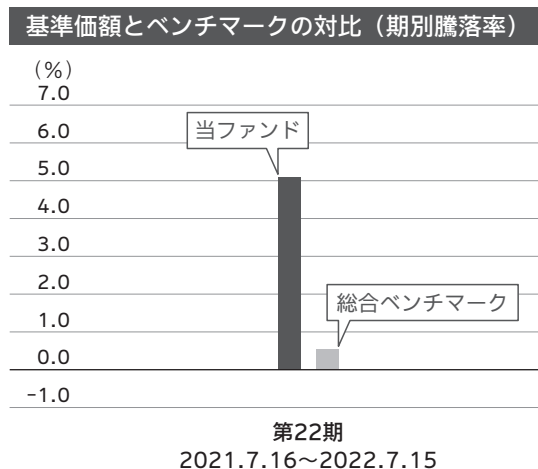
当期間、「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、「損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド」、「S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、「S J A M スモールキャップ・マザーファンド」、「エマージング株式」の騰落率はベンチマーク（日本株式はTOPIX）を上回り、「損保ジャパン-T C W 外国株式マザーファンド」の騰落率はベンチマークを下回りました。

その結果、各ファンドにおける総合ベンチマークとの差異及び差異要因は以下の通りとなりました。

☎ ハッピーエイジング20

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+0.5%）を4.5%上回りました。

個別資産要因がプラスに寄与し、総合ベンチマークを上回りました。

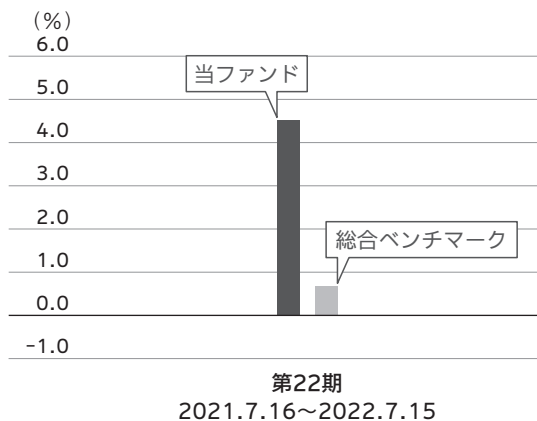


📊 ハッピーエイジング30

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+0.7%）を3.8%上回りました。

個別資産要因がプラスに寄与し、総合ベンチマークを上回りました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）

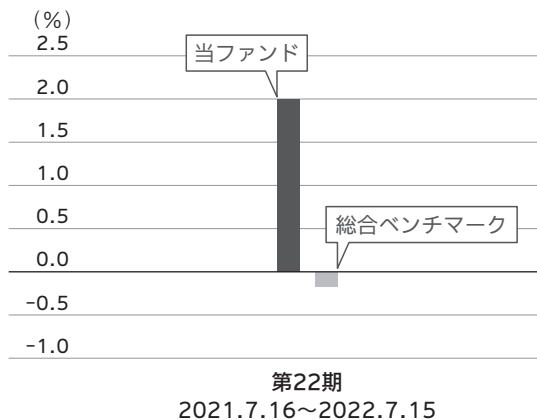


📊 ハッピーエイジング40

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（-0.2%）を2.2%上回りました。

個別資産要因がプラスに寄与し、総合ベンチマークを上回りました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



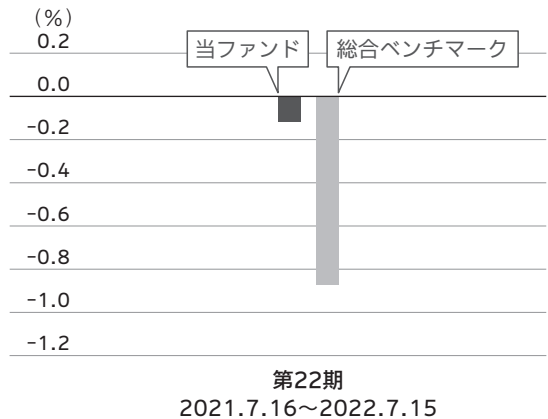


ハッピーエイジング50

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（-0.9%）を0.8%上回りました。

個別資産要因がプラスに寄与し、総合ベンチマークを上回りました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）

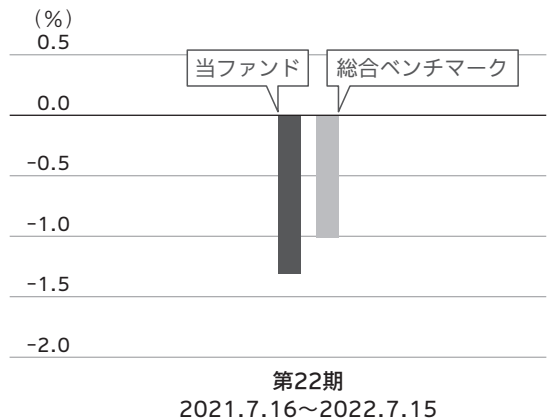


ハッピーエイジング60

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（-1.0%）を0.3%下回りました。

個別資産要因がプラスに寄与しましたが、信託報酬がマイナスに寄与し、総合ベンチマークを下回りました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



期を通じて各マザーファンドを組入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異の要因分析等についてご説明致します。

SJAMラージキャップ・バリュース・マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（+9.2%）を4.2%上回りました。業種配分効果では陸運業、化学、サービス業のアンダーウェイトなどがプラス、海運業、卸売業のアンダーウェイト、建設業のオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。個別銘柄では、ソフトバンクグループのアンダーウェイト、日揮ホールディングス、東京瓦斯のオーバーウェイトなどがプラス要因に、東京海上ホールディングス、日本郵船のアンダーウェイト、サワイグループホールディングスのオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

SJAMスモールキャップ・マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Small Cap インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（-3.6%）を10.6%上回りました。業種配分効果では銀行業のオーバーウェイト、情報・通信業、機械のアンダーウェイトなどがプラス、陸運業、倉庫・運輸関連業、海運業のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。個別銘柄では、シチズン時計、七十七銀行、八十二銀行のオーバーウェイトなどがプラス要因に、EIZO、日本ライフライン、エン・ジャパンのオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

損保ジャパン日本債券マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の騰落率（-3.1%）を0.1%上回りました。

金利戦略は主に、2022年1、3月の超長期ゾーンをアンダーウェイトするショートデュレーション戦略を中心にプラスとなりました。

債券種別戦略は非国債のオーバーウェイトを主因にマイナスとなりました。

個別銘柄戦略は、生保等の金融機関の劣後債の保有がプラスとなりました。

損保ジャパンTCW外国株式マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース））の騰落率（4.7%）を1.3%下回りました。

米国株式の銘柄選択要因が主にマイナスに寄与しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース））の騰落率（+4.3%）を0.9%上回りました。

ユーロをアンダーウェイトし、ドルをオーバーウェイトする通貨戦略や米欧のショートデュレーション戦略が主にプラス要因となりました。

エマージング株式

ベンチマーク（MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース））の騰落率（-8.8%）を2.6%上回りました。

● 分配金

中長期的な観点から、複利効果による資産の成長を目指すために分配を抑えるファンドです。

ハッピーエイジング・ファンド

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、次表の通りと致しました。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第22期 2021.7.16~2022.7.15				
	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
当期分配金	—	—	—	—	—
(対基準価額比率)	—%	—%	—%	—%	—%
当期の収益	—	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	12,968	10,786	8,459	5,682	3,192

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

● 今後の運用方針

ハッピーエイジング・ファンド

マザーファンドの受益証券等への投資を通して、国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式および債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

S J AMスモールキャップ・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

金利戦略については、相場環境に応じてデュレーション・カーブ戦略を中心に機動的に変更する方針です。

債券種別戦略については、事業債を中心とした非国債のオーバーウェイトを継続する方針です。

個別銘柄選択については、信用力対比で投資妙味のある銘柄の組み入れを行う方針です。

損保ジャパン－TCW外国株式マザーファンド

インフレの動向、中央銀行の政策、ウクライナ戦争などにより市場の不確実性が高まっています。米国では、インフレ抑制の為、FRB（米連邦準備理事会）の積極的な金融政策により米国の景気後退の可能性が高まっています。このような環境の下、引き続き高い成長と安定したキャッシュフローが見込める企業の発掘に努めます。







当ファンドは各ストラテジーの投資比率を適宜調整し、個別企業のファンダメンタルズ分析に注力し、いずれの景気局面においても恩恵を十分に受けられるポートフォリオを構築してまいります。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

国別配分戦略は、ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更し、収益機会を増やす方針とします。

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて、機動的にポジションを変更し、収益機会を増やす方針とします。

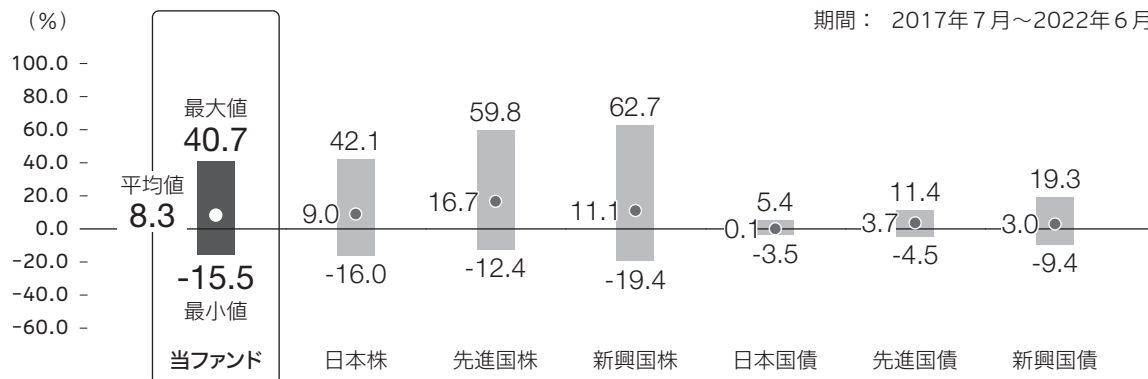
● 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。	
主要投資対象	 ハッピーエイジング20/30/40/50/60 「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、 「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」、 「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、 「損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド」、 「損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド ^{※1} 」の受益証券およびエマージング株式又はエマージング株式を主要投資対象とする証券投資信託 ^{※2} ※1 運用スタイル毎のアロケーションと北米株式の運用指図に関する権限を、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANYに委託します。 ※2 パッシブ運用を行う証券投資信託受益証券を組入れる可能性があります。	
	 S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド わが国の株式	 損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド 日本を除く世界各国の公社債
	 S J AMスモールキャップ・マザーファンド わが国の株式	 損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド 日本を除く世界各国の株式
	 損保ジャパン日本債券マザーファンド 日本の公社債	
運用方法	① 国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式及び債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。 ② 長期的な視点から基準資産配分比率を決定し、当該比率をめどに投資を行います。 ③ 各ファンドの運用は、以下の個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均したものを総合ベンチマークとし、これを上回る運用成果を目指します。 国内株式：東証株価指数（TOPIX） 国内債券：NOMURA-BPI総合指数 外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース） 外国株式：MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース） エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース） 短期資産：有担コール翌日物	
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ① 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ② 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

● 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

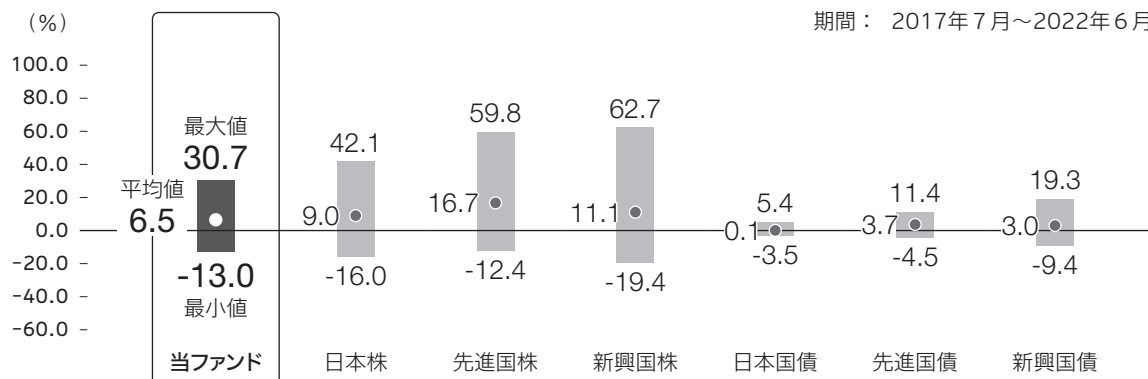
📊 ハッピーエイジング20

期間： 2017年7月～2022年6月



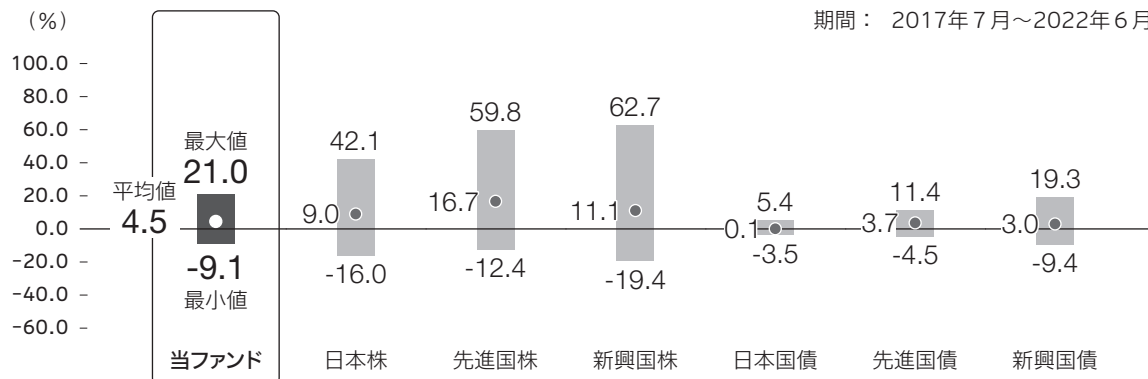
📊 ハッピーエイジング30

期間： 2017年7月～2022年6月



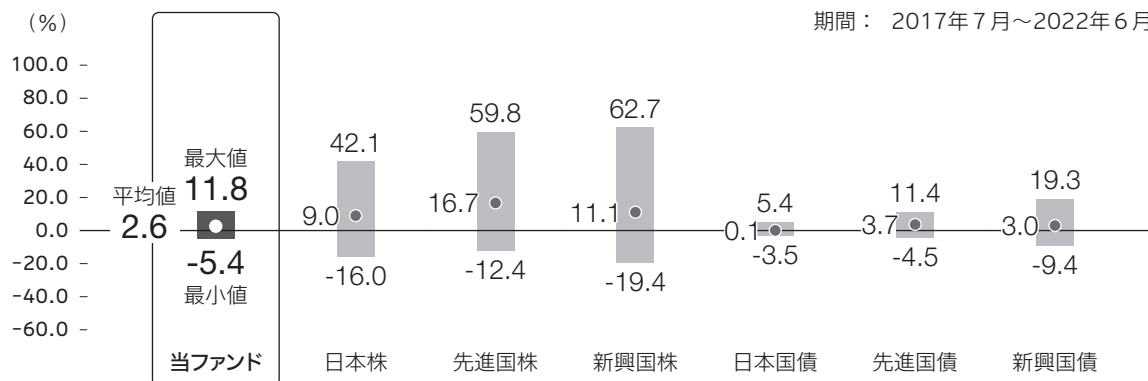
ハッピーエイジング40

期間： 2017年7月～2022年6月



ハッピーエイジング50

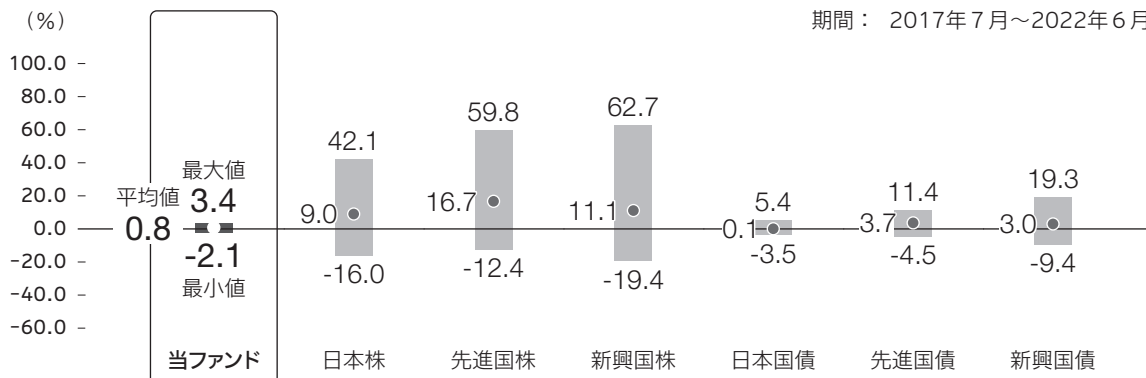
期間： 2017年7月～2022年6月



代表的な資産クラスとの騰落率の比較

ハッピーエイジング60

期間：2017年7月～2022年6月



* 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

* 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)
日本国債	NOMURA-BPI国債
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※ 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- 当ファンドについては、分配金 (税引前) 再投資基準価額の騰落率です。
- 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

指数に関する詳細は66～67ページをご参照ください。

当該投資信託のデータ

📊 ハッピーエイジング20

● 当該投資信託の組入資産の内容

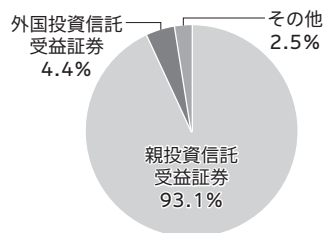
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

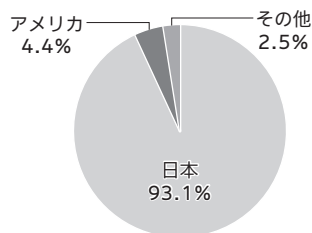
	第22期末 2022.7.15
損保ジャパン T C W外国株式マザーファンド	33.0%
S J A Mスモールキャップ・マザーファンド	26.2%
S J A Mラージキャップ・バリュー・マザーファンド	25.8%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	6.2%
ISHARES CORE MSCI EMERGING	4.4%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	2.0%

注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

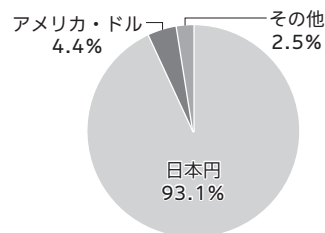
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第22期末 2022.7.15
純資産総額	14,848,476,768円
受益権総口数	8,097,040,123口
1万口当たり基準価額	18,338円

※ 当期中における追加設定元本額は1,809,374,192円、同解約元本額は1,167,066,487円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

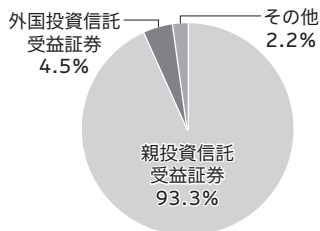
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

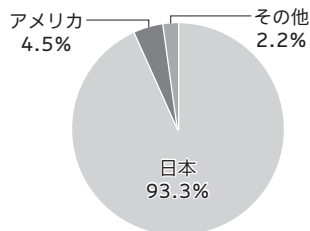
	第22期末 2022.7.15
S J AMスモールキャップ・マザーファンド	22.1%
S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド	21.5%
損保ジャパンTCW外国株式マザーファンド	20.9%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	20.6%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	8.1%
ISHARES CORE MSCI EMERGING	4.5%

注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

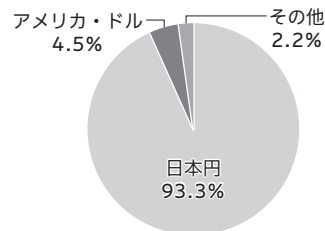
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第22期末 2022.7.15
純資産総額	17,096,530,694円
受益権総口数	9,543,086,407口
1万口当たり基準価額	17,915円

※ 当期中における追加設定元本額は1,339,833,107円、同解約元本額は861,811,651円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

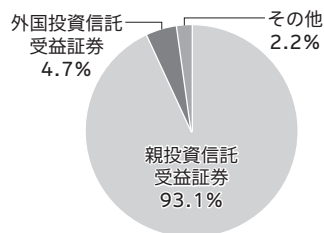
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

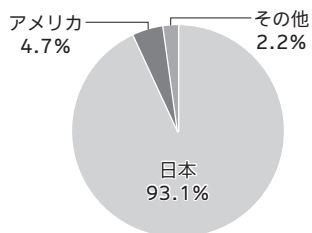
	第22期末 2022.7.15
損保ジャパン日本債券マザーファンド	33.3%
S J AMスモールキャップ・マザーファンド	15.5%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	15.4%
S J AMラージキャップ・パリュウ・マザーファンド	15.1%
損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド	13.9%
ISHARES CORE MSCI EMERGING	4.7%

注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

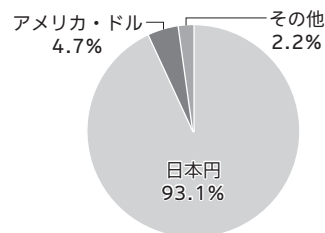
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第22期末 2022.7.15
純資産総額	21,277,799,746円
受益権総口数	12,701,846,625口
1万口当たり基準価額	16,752円

※ 当期中における追加設定元本額は1,936,260,527円、同解約元本額は1,407,258,165円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

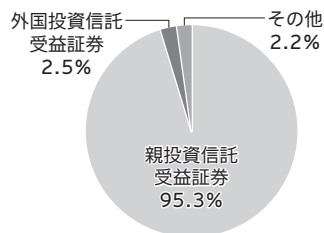
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

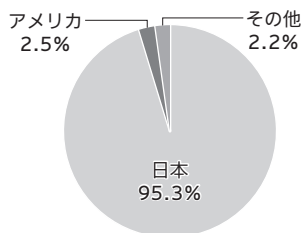
	第22期末 2022.7.15
損保ジャパン日本債券マザーファンド	57.4%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	11.3%
S J AMスモールキャップ・マザーファンド	9.5%
S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド	9.2%
損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド	7.9%
ISHARES CORE MSCI EMERGING	2.5%

注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

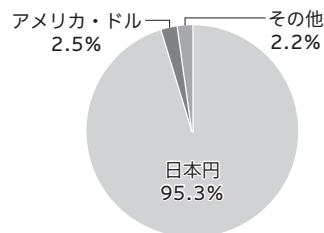
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第22期末 2022.7.15
純資産総額	9,555,136,567円
受益権総口数	6,306,865,858口
1万口当たり基準価額	15,150円

※ 当期中における追加設定元本額は1,182,086,451円、同解約元本額は768,455,642円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

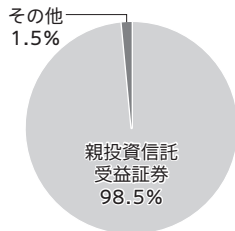
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

	第22期末 2022.7.15
損保ジャパン日本債券マザーファンド	72.3%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	16.3%
S J A M スモールキャップ・マザーファンド	4.0%
S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド	3.9%
損保ジャパン-T C W 外国株式マザーファンド	2.0%

注. 比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注. 比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第22期末 2022.7.15
純資産総額	5,430,316,764円
受益権総口数	4,116,323,762口
1万口当たり基準価額	13,192円

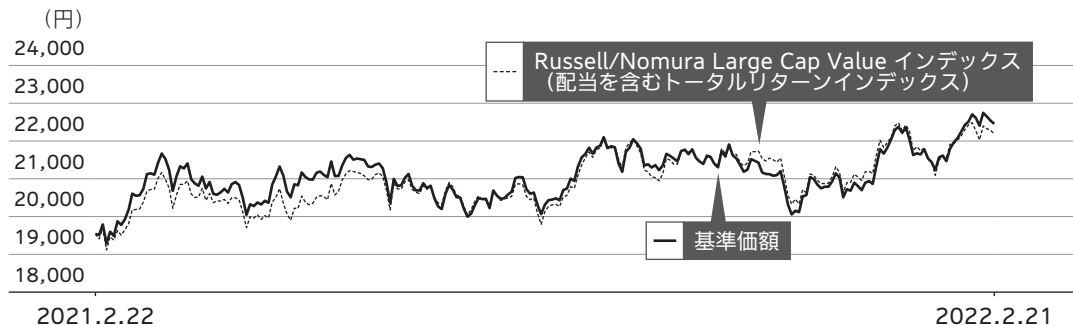
※ 当期中における追加設定元本額は765,693,880円、同解約元本額は648,752,129円です。

● 組入上位ファンドの概要

※ 組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過等に関する詳細な情報については、運用報告書（全体版）に記載されています。

● S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2021年2月22日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

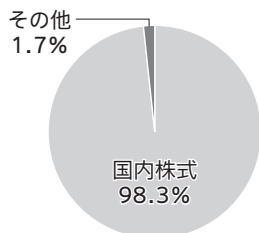
項目	2021.2.23~2022.2.21	
	金額	比率
売買委託手数料	27円	0.131%
(株式)	(27)	(0.131)
その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	27	0.131

期中の平均基準価額は20,751円です。

組入上位10銘柄

銘柄名	業種	通貨	国(地域)	比率
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	日本円	日本	7.3%
2 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	日本円	日本	5.5%
3 本田技研工業	輸送用機器	日本円	日本	4.4%
4 キリンホールディングス	食料品	日本円	日本	4.0%
5 日本製鉄	鉄鋼	日本円	日本	3.8%
6 第一生命ホールディングス	保険業	日本円	日本	3.7%
7 日本電信電話	情報・通信業	日本円	日本	3.7%
8 東レ	繊維製品	日本円	日本	3.5%
9 鹿島建設	建設業	日本円	日本	3.3%
10 武田薬品工業	医薬品	日本円	日本	3.2%
組入銘柄数		42銘柄		

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

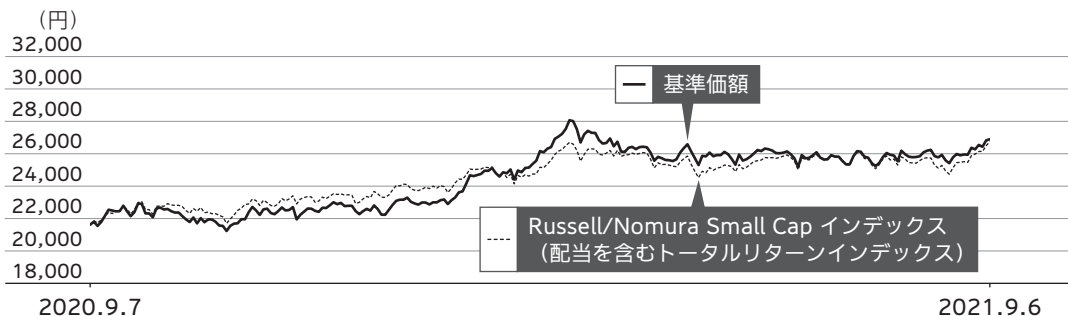
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2022年2月21日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



S J A Mスモールキャップ・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Small Cap インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2020年9月7日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

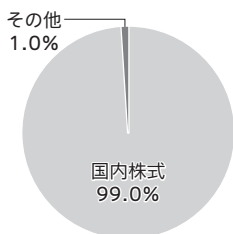
項目	2020.9.8~2021.9.6	
	金額	比率
売買委託手数料	30円	0.122%
(株式)	(30)	(0.122)
その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	30	0.122

期中の平均基準価額は24,240円です。

組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 シチズン時計	精密機器	日本円	日本	3.8%
2 EIZO	電気機器	日本円	日本	3.4%
3 H. U. グループホールディングス	サービス業	日本円	日本	3.2%
4 日本テレビホールディングス	情報・通信業	日本円	日本	2.9%
5 東邦ホールディングス	卸売業	日本円	日本	2.5%
6 伊予銀行	銀行業	日本円	日本	2.3%
7 メイテック	サービス業	日本円	日本	2.2%
8 八十二銀行	銀行業	日本円	日本	2.2%
9 ひろぎんホールディングス	銀行業	日本円	日本	2.2%
10 第四北越フィナンシャルグループ	銀行業	日本円	日本	2.2%
組入銘柄数		91銘柄		

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

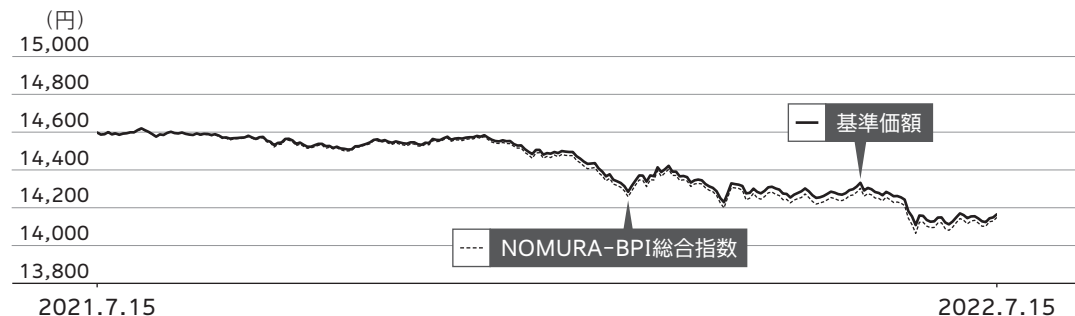
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2021年9月6日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン日本債券マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

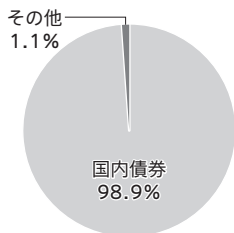
項目	2021.7.16~2022.7.15	
	金額	比率
その他費用	0円	0.000%
(その他)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は14,436円です。

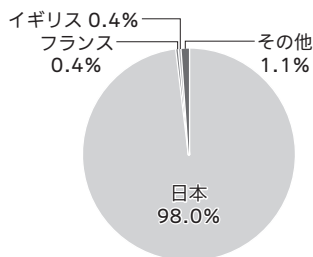
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 第351回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	4.1%
2 第426回利付国債(2年)	国債証券	日本円	日本	3.9%
3 第143回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.5%
4 第139回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.4%
5 第150回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.3%
6 第147回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.1%
7 第346回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	2.9%
8 第433回利付国債(2年)	国債証券	日本円	日本	2.7%
9 第145回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	2.7%
10 第174回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	2.7%
組入銘柄数		98銘柄		

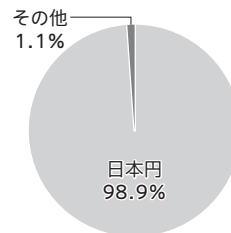
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

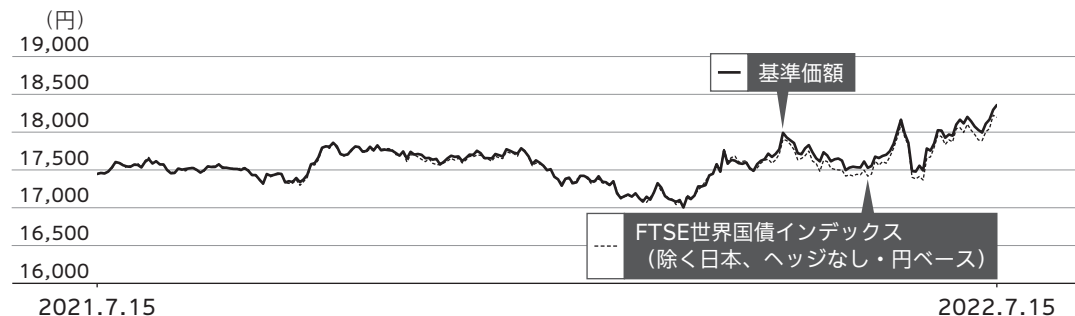
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日(2022年7月15日)現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース））の推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

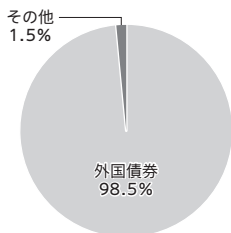
項目	2021.7.16~2022.7.15	
	金額	比率
その他費用	5円	0.029%
(保管費用)	(5)	(0.028)
(その他)	(0)	(0.002)
合計	5	0.029

期中の平均基準価額は17,619円です。

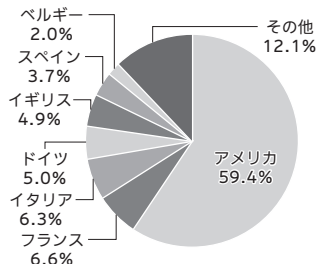
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率	
1 Treasury 2.75 250228	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	13.5%	
2 Treasury 2.125 250515	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	9.5%	
3 Treasury 2.125 240229	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	7.6%	
4 Treasury 2.75 280215	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	5.8%	
5 Treasury 0.875 240131	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	5.1%	
6 FRANCE 0.0 291125	国債証券	ユーロ	フランス	3.5%	
7 Treasury 2.25 270215	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	3.2%	
8 Treasury 1.75 410815	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	2.6%	
9 GERMANY 0.0 310815	国債証券	ユーロ	ドイツ	1.9%	
10 ITALY 2.8 281201	国債証券	ユーロ	イタリア	1.8%	
組入銘柄数		123銘柄			

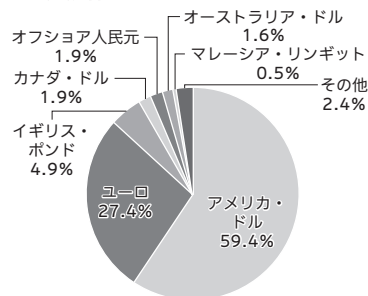
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

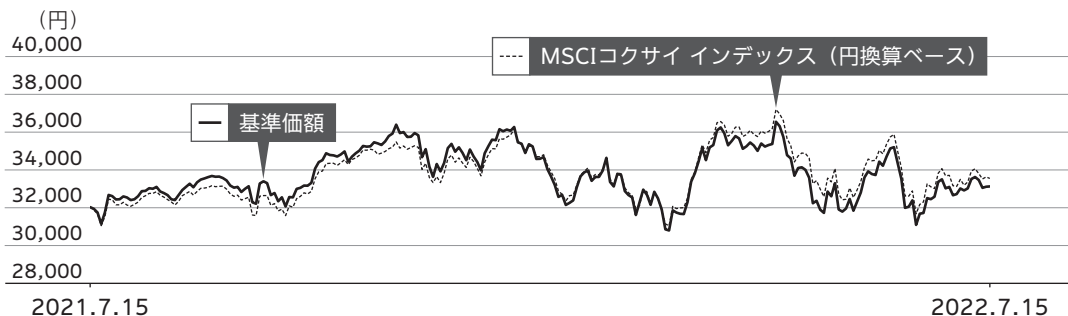
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2022年7月15日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン－TCW外国株式マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース））の推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

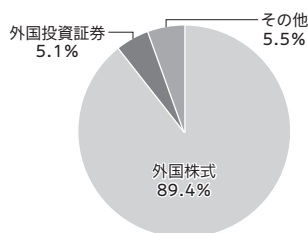
項目	2021.7.16～2022.7.15	
	金額	比率
売買委託手数料	12円	0.036%
（株式）	(11)	(0.032)
（投資信託証券）	(1)	(0.004)
有価証券取引税	2	0.005
（株式）	(2)	(0.005)
（投資信託証券）	(0)	(0.000)
その他費用	17	0.051
（保管費用）	(13)	(0.039)
（その他）	(4)	(0.012)
合計	31	0.092

期中の平均基準価額は33,994円です。

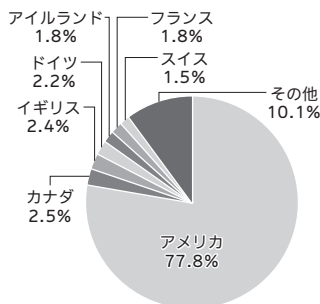
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	3.7%
2 VISA INC-CLASS A SHARES	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	3.1%
3 WASTE CONNECTIONS INC	商業・専門サービス	アメリカ・ドル	カナダ	2.5%
4 DANAHER CORP	ヘルスケア機器・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	2.0%
5 S&P GLOBAL INC	各種金融	アメリカ・ドル	アメリカ	1.9%
6 PEPSICO INC	食品・飲料・タバコ	アメリカ・ドル	アメリカ	1.8%
7 ALPHABET, INC	メディア・娯楽	アメリカ・ドル	アメリカ	1.8%
8 MSCI INC	各種金融	アメリカ・ドル	アメリカ	1.7%
9 MASTERCARD INC-CLASS A	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	1.7%
10 TRADE DESK INC/THE -CLASS A	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	1.5%
組入銘柄数		232銘柄		

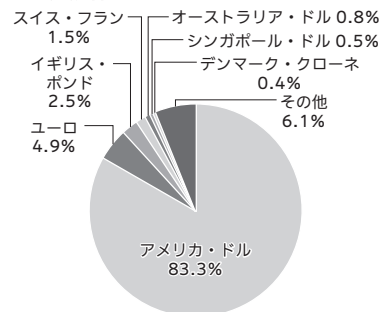
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2022年7月15日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

● 指数に関して

当ファンドのベンチマークについて

個別資産毎のベンチマークを基準資産配分比率で加重平均したもので個別資産毎のベンチマークは次の通りです。国内株式：東証株価指数（TOPIX）、国内債券：NOMURA-BPI総合指数、外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）、外国株式：MSCIコクサイ インデックス、（円換算ベース）、エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース）、短期資産：有担コール翌日物

「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

■ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

■ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

■ MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に円換算しています。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

■ NOMURA-BPI国債

野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

■ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

■ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

ホームページにて各ファンドの詳細をご案内しております。

検索

それぞれのファンド名をご入力下さい。

ハッピーエイジング20

<https://www.sompo-am.co.jp/fund/0883/price.html>



ハッピーエイジング30

<https://www.sompo-am.co.jp/fund/0884/price.html>

ハッピーエイジング40

<https://www.sompo-am.co.jp/fund/0885/price.html>

ハッピーエイジング50

<https://www.sompo-am.co.jp/fund/0886/price.html>

ハッピーエイジング60

<https://www.sompo-am.co.jp/fund/0887/price.html>

各書類の最新版をご確認いただけます。

交

交付目論見書

当ファンド購入に際して投資判断に必要な重要事項をご説明しております。

運交

交付運用報告書

当ファンドの運用状況について重要な事項をご説明しております。

休

海外休業日 (申込不可日)

購入・換金の申込不可日をご案内しております。

請

請求目論見書

交付目論見書より詳細な当ファンドの情報をご説明しております。

運全

運用報告書 (全体版)

交付運用報告書より詳細な運用状況をご説明しております。

販

販売用資料

目論見書を補完する内容をご説明しております。交付目論見書と併せてご覧ください。

月

最新月次レポート

当ファンドの運用状況を月次でご説明しております。

本報告書作成時点のものを掲載しております。